

議会だより

2024.2.25 No.209

も く じ

- 表紙 三原小学校訪問
- 2P 令和5年第四回定例会
主な議決事項など
- 3~11P 一般質問
- 12P 質疑
- 13P 意見書の採決
- 14P 住民と町議会議員の懇談会



三原小学校

三原小学校は平成19年度に旧檜立小学校、旧中之郷小学校が統合され、「三原小学校」として開校しました。平成25年度には旧末吉小学校も統合し、今年度で開校16周年を迎えました。現在は48名の児童が在籍しています。

記野校長先生に、学校の特徴をお尋ねすると「少人数でありながら、地域と密着し、地域あつての学校」とおっしゃっていました。授業では、地域の方々から伝統文化の「八丈太鼓」や「黄八丈」を学ぶ機会もあるそうです。昨年行われた運動会は、児童も地域の人も一緒に大盛り上がりでした。

1月20日には、地域の先輩方の指導のもと「餅つき」が行われました。使用された餅米は、各学校の5年生が、ホタル水路近くの田んぼで育て、収穫したものだそうです。田植えから収穫までを体験し、今まで食べていた「お米」の見方も変わったのではないのでしょうか。炊き立ての餅米を先輩、保護者、先生、児童皆で「突き、こねて、食べる。」とてもめめたい1日となりました。

(取材者 浅沼碧海)



住民の声を活かす議会に

令和5年八丈町議会第四回定例会では、諸般の報告、一般質問後、令和5年度一般会計・特別会計・企業会計補正予算、令和4年度一般会計・特別会計決算認定、条例制定・改正、健康保険証を廃止しないよう求める意見書などが審議された。

令和4年度一般会計決算は、公共施設整備基金を中心とした基金積立金や子育て世帯生活支援事業などの減があった一方、新クリーンセンター建設事業や歴史民俗資料館改修事業、団体集客事業、復興集客事業などの増から、一般会計予算が前年比5・1%増加し、93・5億円となった。また、不用額が1・8億円と前年比9・4%増となった。議員からは、産業振興や町職員の待遇向上、学校のあり方や離島留学制度、漁業操業支援事業などに関する質問・意見が出された。

令和5年度補正予算について、一般会計では執行部より人件費の

増減について、減は職員の欠員、増は昇任制度の変更による昇任増や人事院勧告に基づくものとの説明があった。予算減額についての質疑の中で、介護職員初任者研修事業委託料については委託先人材不足による研修開催中止、保健福祉センターエアコン交換工事請負費については町役場の職員不足と緊急性を要する程度による見送りでの減額との回答があり、各方面で人手不足の影響がみられた。また、介護保険特別会計では包括支援センター業務委託先変更に関する質疑、病院事業会計では人件費の大幅減による業務への影響、白内障手術、児童心療内科に関する質疑などがあった。

条例制定では、八丈町議会議員の請負の状況の公表に関するものが、条例改正では職員の給与に関するものなどが決まった。また、健康保険証を廃止しないよう求める意見書が議員から提出されたが否決された。なお、同意意見書は質

疑において内容修正し臨時会にて再提出との案が示され、第三回臨時会にて上程され、可決された。

全員協議会では、企画財政課

主な議決事項

12月定例会 令和5年12月5～7日

- ◎令和5年度八丈町一般会計補正予算ほか補正予算7件
- ◎特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 ほか条例2件
- ◎町道の路線の廃止及び認定について
- ◎東京都島嶼町村一部事務組合の共同処理する事務の変更及び東京都島嶼町村一部事務組合規約の変更について
- ◎八丈富士山線舗装補修工事（その2）工事請負契約
- ◎八丈町職員懲戒審査委員会委員及び補充員の選任の同意について ほか同意1件
- ◎令和4年度八丈町一般会計決算認定について ほか決算認定3件
- ◎専決処分事項の報告について（損害賠償の額の決定及び和解）
- ◎令和5年度八丈町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の

より「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」の進捗状況の報告がなされた。

今回の定例会は、一般質問、質疑ともに、11月に開催された「住民と町議会議員の懇談会」における意見交換や事前アンケートの回答内容が多く反映された議会となった。（真田幸久）

点検及び評価（令和4年度分）について

- ◎八丈町議会議員の請負の状況の公表に関する条例
- ◎議員の派遣承認について（フリージアまつり表敬訪問）
- ◎健康保険証を廃止しないよう求める意見書（否決）
- ◎専決処分事項の報告及び承認について（令和5年度八丈町一般会計補正予算）

第3回臨時会 令和5年12月19日

- ◎令和5年度八丈町一般会計補正予算
- ◎八丈町副町長の選任の同意について
- ◎健康保険証を当面廃止しないよう求める意見書

主な会議

議会運営委員会 令和5年11月28日

- ◎令和5年度第四回八丈町議会定例会について

一般質問

12月5日 質問者9人

各質問者の録画映像はインターネットでご覧いただけます。掲載文中、表現が硬くなっている部分があります。ご了承ください。



かながわ たかゆき
金川 孝幸 議員

八丈町の教育環境について

問 三根小学校の老朽化が進み、一部のトイレが使えない状況が続いている。体育館にも雨漏りがあり早急な改善要望はあるが町の対応は。

答 教育課長 トイレは便器の洋式化を含め来年度早々の入札を予定している。他の学校の老朽化もあり、他は順番に改修を

行う。

問 全国の学校給食を受けている会社で光熱費に加え食材や人件費などの高騰により安定した給食提供に支障が出ていると聞いているが八丈町は大丈夫か。

答 給食の調理と配送を業者に委託している。光熱費や食材などは町が負担しているので影響はない。

問 モンスターパーARENTへの対応に迫られ、本来の教育に支障や残業は増えてないか。他の自治体では教育委員会に対応窓口を設けているが八丈町の現状と対応は。

答 どの小中学校もモンスターパーARENTといわれる保護者の

対応で教員が残業するようなことではないと聞いている。そのような保護者への対応は、教員だけでなく校長や副校長も一緒に対応するのが通例。教員の働き方改革で業務量軽減に取り組んでいる。

問 ラーケーションを取り入れ始めている学校がある。これは子どもが学校を数日休んでも欠席にならず、家族と過ごしたり旅行をする仕組みで、学業に遅れの出ることはあっても、学業以上に得るものは多いので八丈町でも取り入れないか。

答 この制度は導入されてからまだ日が浅いため、導入した学校の動向を注視していく。

問 子どもが親などの介護を行うヤングケアラーも社会問題になっているが、八丈町での事例はあるか。

答 福祉健康課課長補佐 対応事例はないが、関係機関と情報を共有するネットワークは構築されている。

八丈町の防災訓練について



10月15日に中之郷で行われた防災訓練

問 今年の防災訓練は勉強会的な要素が強く災害時に活かせるのか。町民から防災訓練を増やせないかとの要望に対して自発的な訓練に町は協力すると消極的だったが、防災に対する町の意識を改める必要はないか。

答 総務課長 島内全ての地域で訓練を行うのは厳しい。町からも地域に特化した訓練メニューを提供するなど災害時に役立つ訓練を実施したい。



あさぬま たかあき
浅沼 隆章 議員

三根学園富士中学校校舎の改修・建て替え事業の計画の詳細を

長寿命化計画の策定により、三根学園富士中学校校舎の改修・建て替え事業が始まると認識しているが、計画を立てるうえで、地域の保護者や、学校関係者、地域住民の合意形成が大変重要になると考えている。また令和7年度に創立150周年を迎える三根学園三根小学校の校舎が、富士中学校の次に建て替えの候補であると認識している。

そのことを踏まえたくうえで質問する。
 〇 富士中学校校舎改修・建て替え事業の基本計画を策定する

前に、関係者の意見を聞き、町の財政を鑑みながら、基本計画を策定するべきと考えながら、そのような意見を聞く場所を設ける予定があるか。

〔答〕教育課長 富士中学校の校舎については、施設の長寿命化計画により改修工事を行う予定だったが、校舎の改修工事や工事が完了するまでのプレハブ校舎などの代替設備を整備する必要があるので、総費用が10億を超えることがわかり、富士中学校は改修するのではなく建替えることに計画を変更した。建

令和5年度 学校学年別児童生徒数

5月1日現在

学校名	学年						合計
	1	2	3	4	5	6	
三根小学校	33	30	33	26	27	24	173
大賀郷小学校	20	15	22	15	15	20	107
三原小学校	3	15	7	8	9	6	48
合計	56	60	62	49	51	50	328
富士中学校	24	26	27				77
大賀郷中学校	16	13	18				47
三原中学校	6	10	3				19
合計	46	49	48				143

※ 八丈町教育委員会より

八丈町立学校の児童・生徒数の推移

各年5月1日現在

	R5	H30	H25	H20	H15	H10	H5
小学校	328	338	396	393	539	587	694
中学校	143	175	176	244	276	338	352
合計	471	513	572	637	815	925	1,046

※ 八丈町勢要覧より

替えにあたっては、富士中学校、三根小学校の保護者や学校が地域と関わり、地域住民の皆様の支えによって運営されていて、単に教育活動の問題としてだけで割り切れない、地域コミュニティの拠点としての点もある。地域住民の方の思いも聞いていかなければならないと考えている。

〔問〕事業を進めるうえで、大

まかなスケジュールや、構想などがあれば教えてほしい。
 〔答〕事業の構想やスケジュールについては、富士中学校の建て替えと同時期に給食センターの建替えが予定されている。さらに、富士中学校の次に三根小学校の長寿命化計画による改修が予定されており、その次に大賀郷小学校の長寿命化計画による改修が計画されている。

三根小学校については校舎の形状がより複雑であり、改修には富士中学校より多くの改修費用が見込まれるため、三根小学校も建替になる可能性が高いと考えている。

〔問〕質問にある町の財政面を考慮すると、この富士中学校、給食センター、三根小学校を単独で建設を進めるか、あるいは複合化するのかという議論も必要になり、メリット、デメリット、三根地域の街づくりのあり方も含めての検討が必要になる。まずは、小中学校保護者との意見交換から始めていきたい。



きなだ ゆきひさ 議員
真田 幸久 議員

温泉施設の入場規則について

○本年2月に厚生労働省から理解促進の周知依頼もでていますが、入浴着での入場許可を示すとともに、積極的な啓発活動を行うべき。啓発活動について、「ロベレニくん」の活用など八丈町独自の啓発ポスター作成・利用により、既存の温泉宣伝との相乗効果で観光面での貢献も



厚生労働省
健康・生活衛生局 生活衛生課

期待できると考えるが町の方針は。

○健康福祉課長 厚生労働省からの周知依頼、バリアフリー推進やユニバーサル社会の実現に向けた機運の高まりから、来年4月からの解禁にむけて周知を図っていく。傷跡をカバーするために開発・製造された、バスタイムカバーと呼ばれる専用入浴用肌着を標準とし、入浴客が自ら用意したものを着用してもらおうこととする。周知・啓発については、温泉施設だけでなく、公共施設や多くの人の目にとまりやすい場所へのポスター掲示や広報はちじょうへの掲載、チラシの配布、ホームページやパンフレットへの掲載



認定NPO法人 J・POSH
(日本乳がん・リンクリボン運動)

など、様々な機会をとらえて理解促進のための啓発活動を行っていく。「ロベレニくん」活用については、前向きに検討する。

○オムツ着用幼児の温泉施設入場についても、保護者の方の温泉利用に不便が生じており、ベビー用バスタブの設置もしくは持込許可などにより、許可すべきと考えるが町の方針は。

○まず衛生管理上の問題がある。ベビー用バスタブの貸し出しや持ち込みを認めることで、粗相があった場合の被害を最小限にとどめることは可能だが、町営温泉施設は洗い場が狭く、他の入浴客の足元の安全確保、乳幼児の安全面・衛生面の観点



大分県福祉保健部健康づくり支援課

もあり、現在の設備や管理運営体制のもとでは難しい。

三根小学校のトイレ不具合について

○生理現象に関わることで早急な対応が必要であり、早急な予算措置で対応できるのであれば議会として対応すべきと考える。学校・町の工事終了までの間の対応や、早急に工事に取りかかれない背景について説明を。

○教育課長 施設の老朽化により、2階トイレの配管改修だけでなく、校舎全体の別系統の配管の設置が必要な状況。また、便器の洋式化にも対応するため、それらを含めた改修設計を行っている。現在のところ、トイレの分散運用や、授業中であつても許可を求めることなくトイレに行けるようにして対応できているとの報告を受けている。今後、早急に工事に入れるよう来年度早々入札を行い、タイムミングによっては臨時議会での契約承認も考えている。



いわさき ゆみ
岩崎由美 議員

八丈町における防災体制は十分か

10月15日に防災訓練が中之郷において実施された。

問 この防災訓練のテーマは。一般の参加者は何名か。

答 総務課長 大雨の影響による土砂災害発生前を想定した高齢者などの避難を発令し、危害が生じる前に逃げるのがテーマ。参加人数は中之郷住民34名。

問 観光客のための食糧備蓄について現状を把握しているか。

答 観光協会などにも協力を仰ぎ、状況把握に努めていく。

問 鳥島近海の地震では詳細な

情報が得られなかった。鳥島への地震計などの設置を関係機関が要望したと聞いているが進捗状況は。

答 東京都鳥島町村会からは、気象庁は観測について検証し技術面で検討すると聞いている。今後も鳥島町村会を通じて働きかけていく。

問 町のいう自助・共助・公助だが、非常に重要な共助が曖昧。共助からみた防災訓練が必要になってくるのでは。

答 近隣住民同士の共助は重要。自助・共助について今後の防災訓練に活かしていきたい。振興委員の意見を聞いて効果的な話し合いができるような機会を捉えていきたい。

八丈町公式サイトを更新を

これまで町職員の方が地道に制作されていたが、情報量も増えており独自の維持管理が大変になってきているのではと思う。

問 ここ数年の閲覧数実績は。

答 企画財政課長 八丈町ホームページの閲覧数は、平成30年度62万2千、31年度75万9千、令和2年度128万3千、3年度177万1千、4年度155万7千となっています。今年度は10月末で、105万4千。

問 利用者が閲覧しやすいものに更新する必要があるのでは。

答 職員が頑張って運営しているが、住点は非常に評価しているが、住民目線、観光客目線で、閲覧しやすいものに変えていく必要性を感じている。専門業者に依頼することを含め、リニューアルに向け検討していきたい。

実証実験の今後は

八丈島においてさまざまな実証実験が行われている。

問 八丈町において令和5年度に実施された実証実験の主体と委託先、および予算は。

答 企画財政課長 自動運転バスの運行は東京都都市整備局の事業。委託先はパシフィックコンサルタンツ(株)で、契約金

額は他の地域での実証も含め1億445万6千円。スマートフォン、電動ドライバー(電動バイク)、電動ドライクのシェアモビリティとAIデマンドタクシー(シー)は東京都総務局による実証事業。委託先は日本工営(株)で、1億1千万円。町で

実施しているものは、浮き漁礁への水深計・水温計を設置する実態調査。経費は91万7千円。町営温泉施設での顔認証・顔パス実証の経費は428万5千円。どちらも委託先はみずほフィナンシャルグループ。

問 かなりの公金が投入されている。八丈島の大きな課題のひとつが高齢者の移動。デマンドタクシーについて実証実験で終わらないように、町は都と協力して導入に向けて議論してほしい。

答 AIデマンドタクシーは我々も期待していたが、途中経過をみるとコスト的に事業化が難しい。どうしても必要なものは予算を使ってでも事業化していきたい。



やました たくみ 議員
山下 巧

坂上地区児童生徒数減少 による今後の学校のあり 方について

○八丈町の人口ビジョンの将来人口推計によると、2023年島の人口は7000人を割りほぼシミュレーションとおりに推移し約20年後の2040年には4000人を割る可能性がある。急激な人口減少には誰もが危機感をもっている。

近年坂上地区の児童生徒の減少は学習環境にも重大な影を落としている。1学年が数人のクラスでは坂下へ越境通学したいとの考えもあるようで1人抜ける2人抜けるようだと学校の統合も考えておく必要がある。本来小中学校は歩いて通える所にあるべきだが、来春すでに深刻な

ことと考える保護者もいる。

地域の衰退を防ぐという意味でも学校はなくては困る。特に坂上と坂下は距離があるので坂上に移住する人、移住した皆さんが安心して子育てができるよう町として坂上に残すという考えを示してほしい。

○教育課長 八丈町は人口減少について、町全体、ひいては国全体の課題であり、その中学校のあり方について正面から向き合う必要があると考えている。

現時点で町立学校全体での統廃合計画など具体的な計画はないが、そのことを踏まえ回答する。

学校基本統計調査によれば、平成元年と令和4年の全国の公立小中学校の児童・生徒数を比較すると、小学校が約950万人から約600万人、中学校が約540万人から約300万人と、合計で約39%減少している。

八丈町における同時期の比較では、小学校が759人から447人、中学校が396人から

155人と、合計で59%減少している。

八丈町の部活動の状況は、運動部に関しては各学校だけではチームを組むことができないため合同部活の形もあるが、移動などの問題もあり毎日合同で練習はできない。

その上で考えられる統廃合のメリットは、施設管理費の削減やそのことによる教育の質の向上への予算の再配分、部活動の充実、特別支援学級を含む町全体、義務教育期間を通してのインクルーシブ教育の実現がある。

また、1学年2学級となりクラス替えが可能となることの影響によつて、「多様な意見に触れさせることができる」ことや、「新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる」ことなども考えられる。

一方でデメリットとしては、教員数が全体として減少することや、通学手段の確保の問題があげられる。

また、統合により地域から学校がなくなってしまうことによ

り、その地域の衰退に繋がるのではないかという不安を持つ声もある。

学校は地域と関わり、愛着を育む場でもあり、地域住民の皆様の支えによって運営されている。

今述べてきたように、一般的な考えという部分でもさまざまなメリット・デメリットがあげられ、無理に話を進めることは地域の分断にも繋がりがかねない。

また、地域コミュニティとして考えた時に、小中学校だけでなくその他の施設なども含め、総合的な観点で考えていく必要がある。

ただし、ご質問のように人口減少、それに伴う児童・生徒の減少は避けては通れない将来である中で、行政、議会や学校、保護者や地域住民が一体となつて、子どもたちの成長にとつてより良い形は何かということ、町全体で議論を積み重ねていく時期であると考えている。



あさぬま あおみ
浅沼 碧海 議員

八丈町の人口推移について

問 令和3年4月に「八丈町人口ビジョン 八丈町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が発表され、2年と8カ月が過ぎた。五か年計画の半分が過ぎた中で、今現在の進捗状況は。

答 企画財政課長 進捗状況だが、決算資料に今回初めて、「八丈町・まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告書（令和4年度）」を添付している。5年に一度の施策の評価ではなく、毎年評価を行い施策に反映させようとする試みを行った。報告書は議会終了後、ホームページにも掲載したいと考えている。

問 八丈島は人口推移を204

0年に6000人、2060年は4500人を目標とした。一方大島町では令和3年3月に発表された将来人口の推計では、2040年に6655人、2060年には6000人を目標としている。数値に大きく開きがあるが、八丈町としての見解を問う。

答 人口目標について、八丈町では平成30年からの6年間の平均で毎年101・5人、人口が減少している（自然減が要因）。今年5月の人口が6982人なので、2060年に4500人を達成するためには、人口減少を年平均67人にしなければならぬ。現段階では非常に高いハードルだが、適切な目標値と考えている。

問 人口推移と将来の展望にあって、鍵を握るのは子育てや教育だと考えている。八丈高校の寮建設について町としての見解を問う。

答 教育課長 寮の建設を町が進めるには、卒業生が八丈島の活性化や振興、人口増にどのようにつながるか慎重に検討する必要があると考えている。寮の

生徒の生活を支える人材を長期的に複数人確保することが可能なか、小中学校の建替えや体育館など大規模改修、給食センター、中之郷公民館の建て替えを行うなかでの建設費用の捻出、事業を進めるにあたっての事務職員の増員も必要となる。ホームステイ事業の継続の是非も関連している。早急な判断はできない状況にあると考えており、今後の長期的展望にたつての検討が必要である。

役場内職場環境の改善について

問 昨年度は30人近くの職員が町役場を離職した。職場の環境改善、業務見直しを図れるよう、外部コンサルタントを導入し業務環境を改善していくのはどうか。

答 総務課長 今年度より応募資格を59歳まで引き上げたこともあり、前年度受験された方が20名だったのに対し、今年度はすでに34名の方が受験している。中途採用については、前年度6名に対し今年度は11名を採用。来年1月からは3名、4月

から5名の採用が決まっている。職員の負担軽減のため、毎月のように採用試験を実施しており、前年度と比較すると中途採用の人数は8名増えている状況だ。外部コンサルタントを導入した業務環境改善については、島しょ地区という特殊条件や、住民が町へ求めるニーズの違いもあり、予算をかけてコンサルタントを導入し改善していくのは厳しいと考えている。まずは人員を確保し、職員の負担軽減を図るとともに、離職する理由はそれぞれあると思うが、原因の解明に努めていきたい。

副町長の選任について

問 町長選が終わり、2カ月が過ぎたが副町長がまだ決まっていない。町長の考えを問う。

答 町長 副町長不在が続き住民の皆様にも職員にもご迷惑をおかけしている。副町長の選任について色々とお話したのは事実である。島内の中から人選を行いたいというのが私の本音である。固まりつつあるので、できるだけ早くお諮りできるようにしたい。



おくやま さちこ 議員
奥山 幸子 議員

八丈町の島外生徒受け入れ事業に拡充策を

町の島外生徒受け入れ事業（離島留学）は、順調に経過しているものと思っていた。ところがつい先日、突然受け入れ先の方の体調不良によって継続不可能という事態になっていたことを知った。ただ、受け入れる方が個人である以上、体調をくずすことも緊急に上京するということも有りうるわけで、そうした場合の対処の方法を町は事前に考えていたのか。こうした事態をふまえ、今後の事業をどう進めていくのかを、決めていく時期に来ているのではないかと思ひ、町の考えを問う。

問 継続が困難な事態に、どう

対処したのか。

答 教育課長 現在の住居で環境を変えないよう考える。後任のホストファミリー、食事提供、生活支援など生徒の支援に関わってくれる方を募集している。学校のSNSでも発信している。今のところ2件の問い合わせがあり今後面談する。

問 ホストファミリーに頼る今の制度に限界は感じているか。

答 ホストファミリー契約者が今回のように島外に出るような事情がおこることは、もとより想定していない。今の3人の生徒が卒業するまで（令和7年度）は継続していく。

問 民宿借上げや学生寮などによって制度の継続と拡充をは



かる考えはないか。

答 現在の生徒の生活を維持することが、今の町の課題だ。

問 生活支援の募集に2件の問い合わせがあることに少しほっとしている。ただ、現制度の維持でいっばいで、次の施策は無理



八丈高校

という考えだった。今の制度が限界だからこそ次の施策を打ち出すべきであり、町はできない理由をあげるだけでなく、決断してほしい。一歩踏み出せばなんとかなるのではと思う。教育長はどう考えるのか。

答 教育長 八丈ではホストが見つからないので、この制度の継続は難しいと判断している。寮建設の提案については、八高の活性化のためなのか、定住促進の施策として考えるのか、整理したい。私は島外留学生を入れるより親子で3年間暮らしてもらおうのが一番いいと思っている。

問 定住促進より、八高の立て直しに力を入れてもらいたい。生徒数、学級数、教員数が減り、園芸科も風前の灯だ。八高には生徒がのびやかに育つ環境がある。島外の不登校の生徒なども含めて島外生徒の受け入れを考えてほしい。

答 不登校の生徒を受け入れる目的での離島留学という考えはない。



おきやまのぼる 議員
沖山 昇

青島特別支援学校八丈分 教室の卒業生の進路につ いて

今年度も残り4ヶ月。卒業生の進路について再度質問する。

問 来年3月の卒業生について、進路はもう決定しているか。

答 福祉健康課長 初めての卒業生3人が巣立つ。11月末、就業に向けた実習に取り組んでおり、まだ進路は決定しておらず調整中である。

問 今後とも卒業生及び保護者との相談体制の継続はできるか。

答 学校の先生方が進路相談に取り組み、小売店や製造業など島内事業所での職場見学や就業

体験、現場実習を実施。ハローワークとの連携強化も図っている。町は職場体験や実習、生活支援・就労継続支援制度の相談など、卒業生の相談窓口体制を取っている。

島内介護事業所の介護職 不足について

全国的に介護職不足で、八丈町も訪問介護や介護施設の介護福祉士などが足りない状況である。

以前、町は介護職の確保について働きかけるとの回答だったが、依然として不足している。住み馴れた八丈島で介護を受け、ゆったりと安心して暮らせる環境の構築が必要で、今から考えておかなければならない。

訪問介護や介護施設への入所が叶わず、島外介護施設などへ転出、それは人口減少と空き家の増加につながる。

問 介護職不足を補うため、どのようなサポートを行っているか。

答 福祉健康課長 介護職の知

識や技術を習得する介護職員初任者研修を隔年で実施している。今年度は委託先の人材不足により中止となったが、令和3年度は12名が終了。国や都の補助制度で、職員住宅補助など必要に応じて事業者側と調整している。

昨年度から、都内で実施しているアイランダーというイベントで介護施設の紹介と職員募集のチラシを配布。人材派遣会社と島内事業所との繋がりが出来た。都の制度を活用して外国人材の採用を検討している事業所もある。必要に応じてサポートを行う。

問 介護職不足で介護事業所の運営が厳しくなる危機感はあるか。



か。
答 福祉健康課長 町や介護現場も危機感はある。島内の人材不足は移住促進政策と連携し町全体での対応が必要である。

問 初任者研修の開催と農福連携についても考えてほしい。

令和4年度から社会福祉連携推進法人制度が始まっている。複数の社会福祉法人がグループ化し連携を組む組織。社会福祉協議会の理事会で話し合われたが、制度自体がまだ浸透していないことから、社協では様子を見ることになった。詳しく調べることがあるが、この制度は連携・協働を図り、人材の確保や法人経営基盤の強化、地域共生の取り組みの推進などが可能。その制度も含め、後押しができるか。

答 初任者研修は必要な事業。島外講師も含め、実施に向け取り組む。農福連携については、コロナ禍で中断していたが今後取り組む。社会福祉連携推進法人制度は、相談があればサポートに取り組む。



やましたのりこ 議員
山下 則子

災害時における避難支援を必要とする人への支援体制について

10月15日に三原中学校体育館にて、土砂災害を想定した中之郷住民の防災訓練が行われ、避難支援を必要とする方に対する訓練も行われたと記憶している。

町では、「はちじょうHEARTプラン」と題し、八丈町地域福祉計画が平成30年3月に作成され、平成30年度から平成34年度までの5年間の目指すべき姿が描かれている。

☐36ページにある「それぞれの役割」での【期待する地域住民による取り組み】【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

【行政の取り組み】それぞれについて、どこまで進んでいるのか。

また、【取組を実施することによる5年後の姿】として、地域の中で、災害時における要配慮者を把握し、災害時に助け合える仕組みができていないと記載されているが、現状は。

☐福祉健康課長 ハートプラン36ページでは、災害対策における「自助」「共助」「公助」の考え方に基づき、地域住民、関係団体、行政のそれぞれの役割と取り組み、あるいは5年後のあるべき姿などについて計画していた。

ハートプランでは、5年間の計画期間の中で見直しを行い、令和4年には最終評価と第二次計画の策定を行うものとしていたが、その間に発生した新型コロナウイルス感染症対策を優先し、評価見直し作業はすべて保留されているという状況である。

コロナの影響により、ハートプランの根幹である地域連携や住民どうしの交流活動、地域単

位での防災活動や近所づきあいを通じた近隣の要支援者の把握など、ほとんどできていない。

今後はまず、大きく遅れてしまった第1次ハートプランの進捗状況や達成状況を関係者の皆様とともにしっかりと評価検証し、コロナ後の地域のつながりの再構築を見据えた第2次計画の策定にむけ、努力したいと考えている。

町営温泉に乳幼児用ベビーカーバスを

☐現在町営温泉では、オムツ着用の乳幼児について入ることはできませんと表示されている。

これは、法律で規制されているわけではなく、その温泉ごとの決まりとよいため。ただ、花と緑と温泉の島と謳っているのなら、誰にでも開かれた温泉施設にするべきではないか。

受付でベビーカーバスを貸し出す形でよいと思う。ベビーカーバスには温泉の湯を水でちょうどよい温度にして湯舟の側に置き、お

母さんは湯舟につかりながらお子さんをみている姿を思い描くだけで、ほっこりする。町の考えはどうか。

☐福祉健康課長 オムツをご利用の方、特に乳幼児は、排泄を自らコントロールできないために、浴槽に浸かった際に粗相をしてしまう可能性を否定できない。その場合は、衛生管理上、その日の営業を打ち切り清掃消毒する必要がある。

赤ちゃんがお風呂でおしっこする程度なら平気と、寛容なお考えの方もいるかと思うが、衛生面で不快に感じる方もいる。また、ベビーカーバスを利用すれば粗相があった場合の被害を最小限にとどめることができると思うが、町営温泉施設は洗い場が狭く、他のお客様の足元の安全確保の懸念がある。乳幼児の安全面・衛生面の観点もあるところから、現在の設備や管理運営体制のもとでは難しいと考えている。

質疑より

●島内での白内障の手術について



浅沼憲春 議員
島内では単焦点の手術はできるが、多焦点の手術はできない。

多焦点の手術を島でも可能にできないか。

病院事務長 前提として選定療養の登録が必要。また、角膜乱射や網膜の形状に異常がないことを確認する必要もあるが、確認を行う機械がない。患者負担も多焦点レンズは保険適用外のため30万円前後となり、通常の白内障手術よりも高額になる。また手術後は入院し経過観察が必要になるが島内では常駐の眼科医師がない。

現状の臨時診療の白内障手術では金曜日に手術後、土曜に症状を見て、臨時診療は終了となる。こういった事情も踏まえ単焦点レンズの手術のみとなっている。

●児童診療内科のオンライン診療について

浅沼憲春 議員 二、三ヶ月に一度上京し、児童心療内科に通院して、処方箋をもらわなければならない子供がいる。親も付き添う為家族の負担も大きい。オンラインでの診療や処方箋をもらうことはできないか。

病院事務長 今現在オンラインはやっていない。都内でも児童心療内科は専門の診療なので、先生は少ない。島内でそういう事情があれば、福祉健康課や家庭支援センターと連携し、相談があれば受けるようにする。

浅沼憲春 議員 心療内科の医師が島に来てくれれば、そういう病気を持った患者は多少増えるのではないか。オンラインがダメであれば、その子供が通う病院の先生がオンラインを八丈町立病院とやってももらえるということであれば、受けてもらえるか。

病院事務長 オンラインはできない。紹介状をもらい、こちらの小児科に出してからの判断となる。薬があるか懸念はあるが、処方自体は大丈夫ではないか。

●地域包括支援センター業務委託先の変更について

真田幸久 議員 社会福祉法人養和会の介護人材不足、職員の確保が困難な事から委託先が変更となったが、人材不足という点では、一般社団法人櫻壽会も同様の事が考えられる。なぜ養和会では困難で櫻壽会では可能という判断に至ったか。

運営協議会では反対意見も出たと聞く。開示可能な範囲で懸念事項などを教えてほしい。

福祉健康課長 養和会は百床を持つ特別養護老人ホームの運営も同時に行なっている。老人ホーム運営の為の人材確保に集中したいとの事。新たな委託先となる櫻壽会では、応募書類にも人材確保の計画なども提出をしている。多少不安もあるが、企業努力をしっかりとお願いすると言うことで、今回委託したいと考えている。

運営協議会での細かい意見は控えるが、人員確保や未経験での経営に不安があり、賛同してもらえなかったと理解している。

真田幸久 議員 運営上の懸念と、経営上の懸念も考えられる。財務的な数字などは示せるのか。無理をしての経営だと将来の不安がある。運営

主体だけではなく、グループ全体としてどういった財務状況にあるのか。その点でも問題ないという判断に基づいて、今回委託をしたのか。

福祉健康課長 櫻壽会の経営に関しては、事前提出書類の中で財務計画を提出させているので問題ないと確認している。細かな運営状況については、はっきりとは把握できていない。今回の募集にかかる応募の書類については、希望があれば開示したいと考えている。

真田幸久 議員 グループ全体で資金繰りが詰まっていくような可能性があるかと、将来的に全体として業務を止めてしまう可能性も出てくる。監督をする際に、判断材料として確認項目の中に入れてほしい。

八丈高校の在り方について

奥山幸子 議員 八丈島の小中学生が確実に減っている。島にいる生徒が八丈高校に入学してもらう努力を町はしてきたと思うが、その努力や施策を伺いたい。

教育長 例年十人ちょっと島外の高校に進学する生徒がいる。各中学校と連携し、八丈高校の佐藤校長と八丈高校のPR活動をしている。ただ高校進学に関しては各家庭の考え方

もあり、島外への進学はさまざまな理由もある。島内の生徒が2人、3人でも八丈高校へ進んでもらえるような取り組みを常々行っている。

浅沼碧海 議員 令和五年度、八丈高校の学校経営計画にホームステイ先の確保と寮建設を謳っていると聞いている。佐藤校長と連絡を取り合う中で、寮建設の話はまだ議題に上がっていないという認識でよいか。

教育課長 その点も話してはいる。八丈高校の認識では、八丈高校の計画に載っているのは八丈町が計画するならば、ということである。

真田幸久 議員 離島留学や関連する寮建設の議論において、生徒数を増やすこと目的、具体的な目標値、方法、費用対効果をふまえて執行部、議員ともに考えていくべき。気持ち先走ってしまうと、将来負の遺産として処理しなければならなくなる可能性がある。学校の統合の件にもかかわってくる問題であり、地域のゾーニングなど、まちづくりといった大きな絵の中で学校の位置づけを考えるべき。

教育課長 教育課の教育に関する視点だけではなく、町づくりに関して、総合的な視点での検討が必要になってくると考える。今後教育課だけでなく全ての小中学校（体育館含）

の改修・立て替え、給食センター、公民館などもある。町づくりの観点からも皆の意見を取らないと難しい。保育園・小・中学高の卒業生の数字をめどに総合的に議論する部門が必要だと考えている。

教育長 東京都教育委員会が、都立高校のあり方の決定をするという所管事務となっている。島内からの要望を受け、どのような支援を行っていくか。都立高校の経営や運営に踏み込みすぎると、自主自立の学校経営にかなり影響を及ぼしてしまう。島外留学生導入も含めリセットし、もう少し時間があると考えている。そういう観点で検討の方向も整理して進めていった方が良い。ご理解いただきたい。

真田幸久 議員 重々承知している。ただし八丈高校は八丈町に存在しており、八丈町の環境資源をどう活かして八丈高校を活性化していくのか。普通科で相対的な魅力を高めることは難しいと考えており、園芸科をより充実させ相対的な魅力を高めるなど、八丈町の産業政策とも絡めて総合的な戦略の中でどう位置付けていくのかを考えるべきである。

健康保険証を当面廃止しないよう求める意見書

いったん否決も修正案可決

12月定例会では健康保険証を廃止しないよう求める意見書が奥山幸子議員から提出されたが否決。内容の修正が行われ、第三回臨時会に再提出され、可決された。

採決のあった議案

◎健康保険証を廃止しないよう求める意見書（定例会の議案名）

◎健康保険証を当面廃止しないよう求める意見書（臨時会の議案名）

【定例会での反対討論】

浅沼憲春 議員 基本的に反対ではないが、「暗証番号が必要」や「資格証明有効期限」に関する事実関係や提出先に担当庁のデジタ

ル庁が入っていないなど、適切ではない内容があり、反対。

真田幸久 議員 廃止の延期には賛成だが、「合法的に疑義」についてその内容を明確化できていないことなど適切ではない内容があり、反対。

【定例会での賛成討論】

金川孝幸 議員 同様の意見書が多く自治体から出ている。マイナンバーカードはまだ浸透しておらず、特に高齢化率の高い八丈町においても提出すべき。

（可決された意見書は議会事務局のホームページで閲覧できます）

意見書への各議員の賛否

※ 議案などの採決は山本忠志議長を除く11人で行う。

	定例会	臨時会
真田幸久	×	○
浅沼隆章	×	○
奥山幸子	×	○
浅沼清孝	-	○
山下則子	×	×
金川孝幸	○	○
沖山昇	×	○
岩崎由美	×	○
浅沼碧海	×	○
山下巧	×	×
浅沼憲春	×	×
結果	否決	可決

○ 賛成 × 反対 - 欠席

発行人 八丈町議会議長 山本忠志

編集 議会だより編集委員会

委員長 奥山幸子 副委員長 山下則子

委員 真田幸久 浅沼碧海

〒100-1498

東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437

メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

12月議会は、4期目の山下町長の所信表明に始まり、補正予算に続いて一般会計・特別会計の決算審査を行いました。島外生徒受け入れ制度の課題や小中学校の建替えなど、町の将来設計にかかわる多くのテーマが浮き彫りになりました。

年が明けてすぐに能登半島地震災害、羽田空港日航機衝突事故が続いて起き、不安な幕開けとなりました。亡くなられた方、被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。(奥山幸子)

住民と町議の懇談会を開催しました

新型コロナウイルスの影響により延期されていた「住民と町議会議員の懇談会」が昨年11月17日、八丈町役場大会議室で4年振りに開催されました。当日は、12名の町議全員と住民17名が参加し、山本忠志議長の挨拶の後、事前のアンケート結果にもとづいて分けた3グループで、意見交換しました。

「子育て・教育」グループでは、「島の特徴を活かせる教育内容に」「小中学校の統合について…他に現在のトイレ故障や体育館の雨漏りについて」「空き家対策」「町役場の仕事や職員の定住」などが話題となりました。

浅沼碧海、浅沼隆章、山本忠志、住民5名



「産業・その他全般」グループでは、「教育のICT化」「八丈学について」「八丈で子育てする意義を明確に」「小・中学校数の集約が必要では」「八高と中学校の連携が必要」「教員の人材不足」などについて話し合いました。

浅沼憲春、山下巧、真田幸久、住民4名

「高齢福祉・交通・動物」グループでは、「坂上から飛行機の1便に乗れるバスがない」「高齢になって飼い猫を飼えなくなる場合の、飼い猫の生涯飼育の仕組みを」「乳がん手術後の人も温泉に入れるようになる」「運転範囲や時間を限定した上で運転し続ける仕組みを」「自分たちが助け合うシステムを」「福祉の人材不足」などが話題となりました。

金川孝幸、浅沼清孝、岩崎由美、沖山昇、山下則子、奥山幸子、住民8名

それぞれのグループでは、自己紹介しながら各自の日頃思っていることや意見などを語り合い、有意義なひとときを過ごしました。(山下則子)

開催日時 11月17日(金) 午後7時～8時30分 会場 町役場大会議室

※ 事前にいただいたアンケート内容などは八丈町ホームページの議会事務局のページに掲載しています。